

新幹線プレス

2012年4月30日 No.48

発行者 成田隆浩

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

経営協議会シリーズ6

浜岡原発の再稼働はJR東海の経営を脅かす！ 浜岡原発に対する認識を問う！

2011年3月11日の東日本大震災は津波による多くの犠牲を生み、同時に福島第一原発の壊滅的事故により鉄道にも大きな影響を及ぼしました。福島第一原発に隣接する常磐線は全線開通の目途すら立っていない状況です。東海道新幹線も20キロ圏内に中部電力浜岡原発が存在しています。政府の要請で昨年5月から浜岡原発は冷温停止中ですが、防潮堤工事など津波対策が進められれば浜岡原発の再稼働が画策される恐れがあります。福島第一原発の炉心の状況がまだ把握もされていない今日、フクシマのような巨大津波が仮に浜岡原発を襲った場合、東海道新幹線はその脅威にさらされるのです。

4月12日の経営協議会でもこのことに触れ、浜岡原発に対する会社としての認識を問いました。しかし会社回答は「コメントする立場にない」と認識を明らかにしませんでした。JR東海は東海道新幹線が収入源であり、避難地域として線路が寸断されれば経営が成り立たなくなることは明白です。「コメントする立場にない」ではあまりに無責任というほかありません。

世界一危険な浜岡原発の再稼働に反対！

原発の危険性はフクシマの事故で証明され、今年5月、国内の原発は定期点検によりすべて停止します。さらには南海トラフによる20メートルを超える津波の予想が内閣府から発表されるなど、原発を取り巻く状況は周辺自治体の問題にとどまらず、原発再稼働に多くの自治体が反対や疑問を表明しています。会社の存亡と社員の生活を考えた場合、浜岡原発を語ることは決して他人事ではないのです。世界一危険と言われている浜岡原発の再稼働に私たちJR東海労は反対の立場を明確にしています。原発事故が発生した場合に会社存亡の危機に見舞われる事態を避けるためにも、浜岡原発に隣接するわが会社は浜岡原発の存在に目を向けるべきです。

会社は、事故が発生しても「コメントする立場にない」といえますか？

**現場で働く労働者が安心できる環境に変えるため、JR東海労
新幹線地本は会社に対して危機管理意識について問い続けます。**